

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	交流・環境	25年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 誘致推進課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成	成果	コスト			
事務事業名	客船誘致の推進	継続	維持	維持	連絡先	052-654-7835
目的	対象(誰・何を)	客船			連携課	企画担当、海務課、港湾管理事務所
目的	意図(どういう状態にしたいか)	名古屋港への寄港増加に向けた取組を進め、交流空間としての魅力向上を図る。			事業期間	平成6年度～継続
概要	客船の誘致を進めるとともに、乗船客の印象に残る歓送迎行事や観光案内等によるおもてなしのほか、船内見学会の実施により客船への関心拡大を図ります。				根拠法令等	
26年度の実施予定	関係行政機関、団体、企業で構成する「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じて客船誘致に向けた取組の検討を進めます。また、客船が入港する際には、歓送迎行事、観光案内等を実施するとともに、船内見学会の実施について運航会社に協力を要請していきます。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
					関連シート	

2 DO(実施)

26年度に実施した内容・結果	関係行政機関、団体、企業で構成する「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」での活動を中心に、国内外客船会社等への誘致活動を実施しました。また、客船寄港時には、歓送迎行事、観光案内等を実施するとともに、運航会社協力のもと船内見学会を実施しました。					
コスト	単位	24年度	25年度	26年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	36,725	45,074	43,032	41,610	本事業費は、一般会計及び名古屋港利用促進協議会から支出されるため、以下の計算式により算出しています。 事業費総計額＝一般会計の支出分＋(同協議会における支出×本組合の負担割合)
人件費	千円	6,973	7,008	8,809	7,597	
合計	千円	43,698	52,082	51,841	49,207	

3 CHECK(検証)

指標名		24年度	25年度	26年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
客船入港隻数(隻)	目標	-	-	40		40	過去5年間(平成21～25年)の客船入港隻数の最高値を目標値としました。	
	実績	40	38	35				
(単年度管理型)	事業進捗状況(26年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり	目標値を下回る		
客船見学会の開催数(件)	目標	-	-	3		3	見学会の実績が多い日本船籍の客船数を目標値として設定しました。	客船運航会社の協力
	実績	1	2	3				
(単年度管理型)	事業進捗状況(26年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり	目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	客船の入港隻数については、名古屋港における着岸実績の多い日本船籍が退役したことなどにより、目標値には届きませんでした。引き続き、目標達成に向け取り組んでいきます。見学会の指標は目標を達成しており、地域のクルーズ需要掘り起こしや客船への関心拡大につなげることができました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 見学会の実施には客船運航会社の協力が不可欠ですが、本組合が関与することで事業の公平性が担保されると考えます。見学会の定員に対し常に応募者数が上回っており、一般県市民の関心に応える事業となっています。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○ 客船入港時の見学者や見学会の応募状況から、華やかな客船の寄港は上位施策である「うるおいと魅力のある港湾空間の形成」に寄与していると考えます。						
	期待どおりの成果が得られているか?	○						
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 実施に当たっては直接的な支出を抑え、客船運航会社の協力を得ながら行っています。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	27年度以降の方向性			判断理由
	成果	コスト		
継続	拡大	拡大		・「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じて客船誘致の検討を進める必要があるため。・大型客船入港に対応できる係船柱等の整備をしていくため。
課題				27年度以降の取組
客船の継続的な寄港への取組は、港単体のみならず、関係機関との協力・連携が必要です。また、見学会の実施は、客船運航会社の協力なしには成り立たないため、今後も継続して協力的な関係を築いていく必要があります。				「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じて関係機関との連携を強化しつつ、引き続き、県市民の客船への親しみを深めるとともに、港の賑わいを創出すべく客船誘致に取り組みます。